埼玉県 熊谷市

地域課題：子どもに優しいまちの推進　～子どもの居場所を増やしたい～

立教大学　立教サービスラーニング

『SOCIAL＆PUBLIC』

●課題解決のための 熊谷市へ 4つの提案

提案①熊谷市版 子ども食堂フォーラム の開催

提案②全国初となる、全小学校区での 子ども食堂 の開催

提案③資金源として『ふるさと納税型クラウドファンディング』の導入

提案④地域愛の醸成のための ウェルビーイング指標の導入

Ⅰ　４つの提案 の きっかけ と 理由

熊谷市の給食関係者から、

給食がない夏休み明けに、
げっそり痩せこけてくる児童がいる。

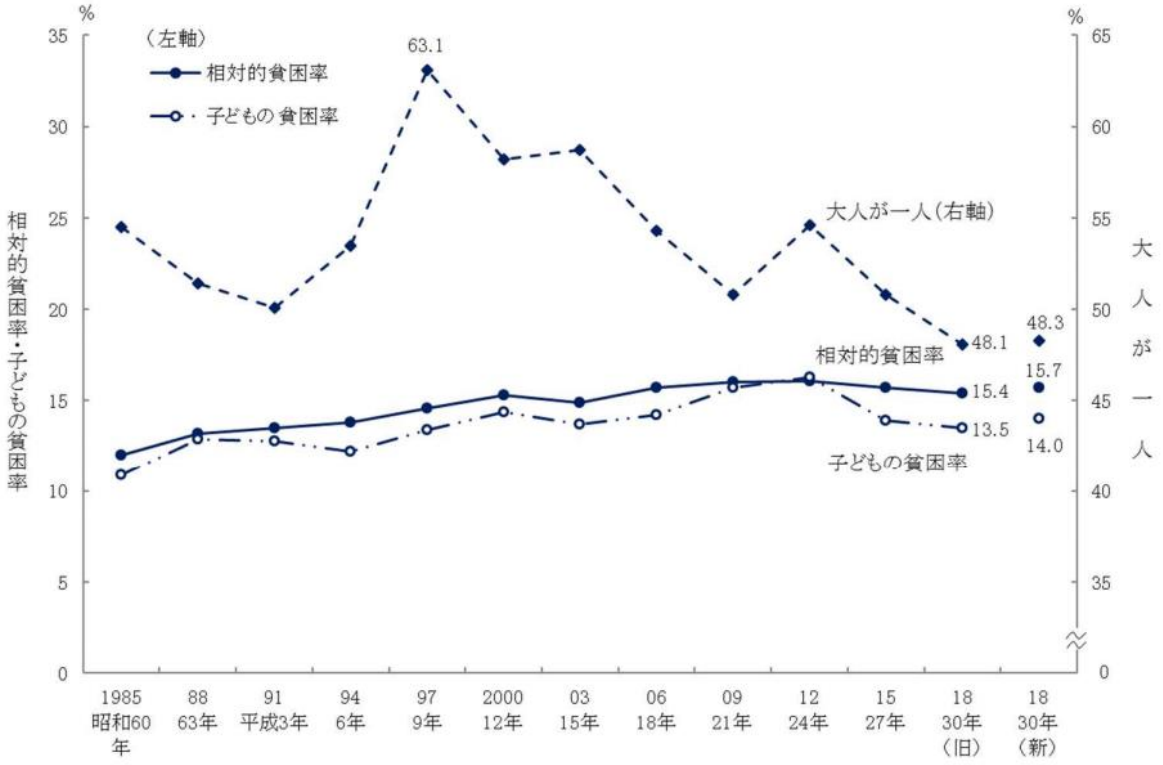
その理由は、
貧困により、家に食べるものが無いからだ。

私は、この発言に「大きな衝撃」を受けました。

理由① ７人に1人の子どもが貧困状態

豊かな日本と思われている一方で、７人に1人の子どもが貧困であることが厚生労働省のデータより、わかる

図 13　貧困率の年次推移



また、その様子は、日経新聞にも記載され、まぎれようもない事実として認識される。

このデータに加え、埼玉県および熊谷市のデータから、
子どもの貧困には“4つのない” が存在することが分かる。

埼玉県子育て応援行動計画（令和２～6年度）/熊谷市子ども貧困調査報告書（平成31年3月）

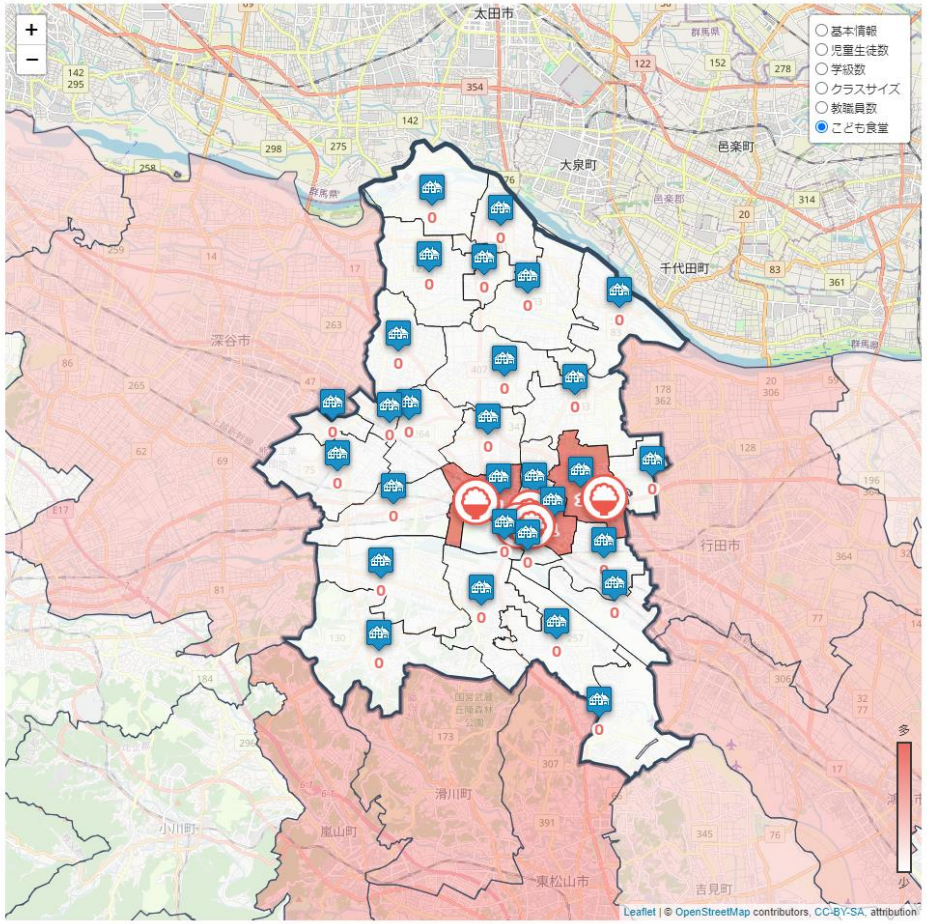
① お金がない （経済的貧困）
② チャンスがない （機会の貧困）
③ つながりがない （関係性の貧困）
④ 自信を持てない （自己肯定感の貧困）

この４つの貧困を解決する必要がある

熊谷市の現状

埼玉県は全小学校区にひとつの子ども食堂をつくることを目標としていますが、

熊谷市には、４団体しかなく、学習支援のような「子どもの居場所」は、まだ数件しかありません。



出典：「こども食堂マップ」
「認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」

理由②子ども食堂運営者のお話

なないろ食堂　山口代表は、5つの点を挙げた。

① 月１、週１でなく、できるだけデイリーに子ども食堂は必要である

② 現場では、より悲惨な子ども貧困の状態が見えてくる＝理由①より更に深刻な状況

③ 本当に困っている人には、子ども食堂の情報が届いていない

④ 役に立ちたい！協力したい！個人は多くいるが、マッチングがうまく行ってない。
逆をいえばリソースはある。

⑤市民・企業の協力の必要性と、何より、ネットワークがないことで、問題意識が共有できていない。

現場には、数字から見えてこない、

より悲惨な状況が存在し、

データの間を埋める

場 と ネットワーク が必要です。

II　既に、熊谷にある リソース の確認

１番目のリソースとして、提案代表者の有限会社PUBLIC DINERは、

農泊の施設があります。

ここでは、

- 自然栽培による野菜づくり
- 梅干しづくり
- 味噌づくり
- 米作り

など各種ワークショップを開催しています。

また、熊谷圏オーガニックフェスを主催し、交流人口を増やし、移住者の増加、地域連携などにも寄与している。

ALLPRESS
ESPRESSO

BIOSK

CREPE

Hemp and Raw
soto cafe
Soto cafe
Drink Menu
kitchen

KURASHINO
CA

GREATER KUMAGAYA
ORGANIC FES

KITE

Sai

２番目のリソースとして、授業を共に行う
農福連携のリーディングカンパニーの
埼玉福興株式会社（熊谷市妻沼）では、

地域の小学校と連携し、
エディブルスクールヤードを行っています。

日々の学習おいて、作物を作り、
給食により食され、大切な栄養源となっています。

これらの野菜やコメも
農薬、肥料を一切使わない自然栽培です。

また、熊谷市は、
フードドライブ、フードパントリーが発達している。

既にある リソース を活用すれば、
子ども食堂の開催だけではなく、

熊谷市の子どもの居場所の不足と、

子どもの４つ貧困問題

① お金がない （経済的貧困）
② チャンスがない （機会の貧困）
③ つながりがない （関係性の貧困）
④ 自信を持てない （自己肯定感の貧困）

この４つのないの解決の糸口となると考えます。

これらの過程は、
関わった人たちの**地域愛や熊谷愛を醸成**させています。
私たちも、
立教大学の授業で、
熊谷を訪れ、同じことを**実感**しました!

ゆず

今あるリソースに加え、

3つの足りない部分をCOGをきっかけに、

つなぎ、補うため、

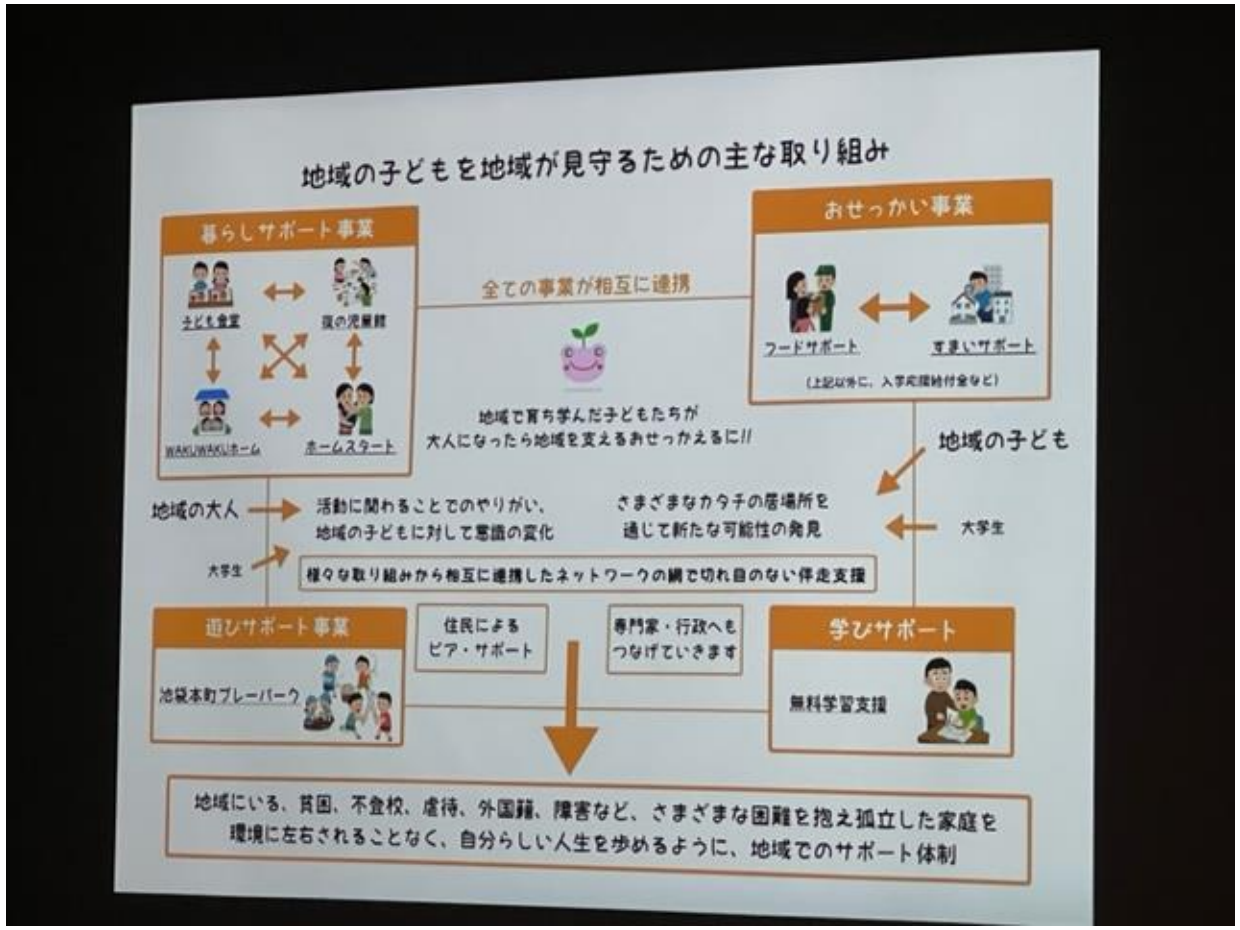
最初に話した４つの具体的提案を行います。

Ⅲ　具体的提案

足りない部分①

ネットワーク

埼玉県は、子ども食堂への意識が高く、子ども食堂フォーラムを例年行っている。



参加することにより、

課題の共有
成功事例の共有による

効果も実感できました。

熊谷市には、まだこうした
ネットワークが明確にありません。

子ども食堂運営者のコメントにあったよう、隙間を埋め為に、

熊谷版の子ども食堂フォーラムが必要です。

提案①熊谷市版子ども食堂フォーラムの開催

課題の共有のため関係者や協力を希望する方が一同に会する
「熊谷市子ども食堂フォーラム」の開催を行う。

開催場所：
熊谷市の文化の発信基地ともいえる
八木橋百貨店カトレアホール（調整済み）

提案②フォーラム後、そこで出来たネットワークを駆使し、
全国初となる、全小学校区での子ども食堂の開催

・熊谷商工会議所などの協力
・提案者の個人的な飲食店ネットワーク

熊谷市内の飲食店のみなさんと、熊谷市全小学校区にて、
子ども食堂の同時開催します。

もちろん、私もそこに参加します！

ネットワークをつくる

きっかけ（大義名分）と パイプ役（旗振り役）の

不在を、COGの提案をもとに解消する！

＝これこそが、今回のCOGの提案の意義です！

足りない部分②

資金

提案③資金源としてのふるさと納税型クラウドファンディング導入

継続的な資金源は、
ふるさと納税型クラウドファンディングの活用を提案します。

先行事例として**埼玉県北本市**は、ふるさと納税型のクラウドファンディングを利用し、

一連の流れを
シティプロモーションにも連携させ、**地域愛** を醸成している。

足りない部分③

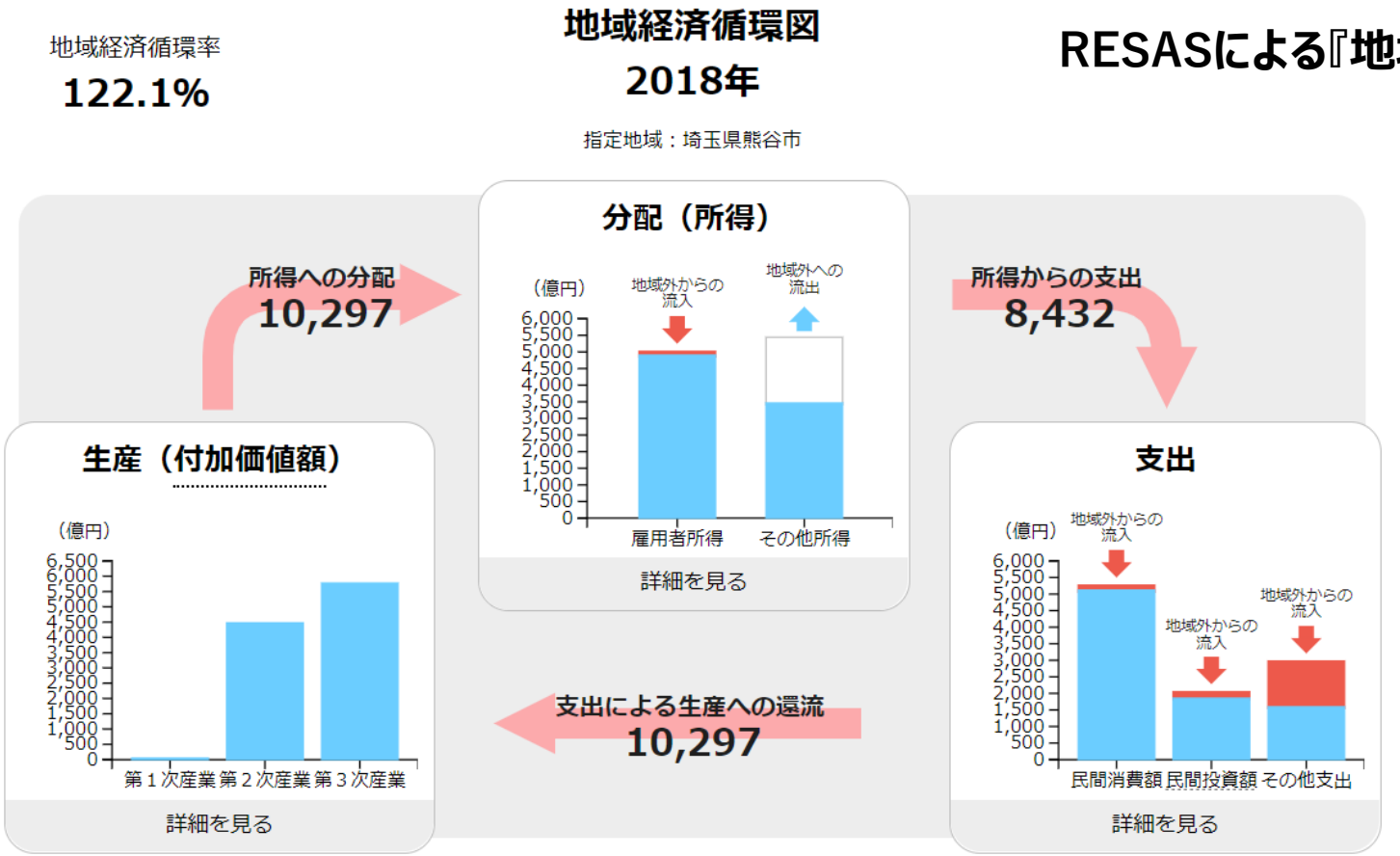
指標

現在、熊谷市民の地域愛を何で計測するか？指標がありません。

「熊谷には、何もない」と多くの熊谷市民が言う。

しかし、熊谷市は市内経済の循環が顕著に出ている。

RESASによる『地域経済循環マップ』



また、熊谷市は、ない市民活動はないといわれるほど、多種多様な市民活動が存在する。

各種レポートからも、

（一例：市民の幸福感を高めるまちづくりの指標/一般社団法人 スマートシティ・インスティテュート）

シビックプライドと幸福度の相関性は高いことが

報告されています。

「子どもの居場所」を創出しながら、
ふるさと納税型のクラウドファンディングを導入し、

ウェルビーイング指標を携えることにより、
地域愛の醸成を行うことを目的とします。

提案の様々なプロセスから育まれるであろう
地域愛を数値化し、

目に見えない部分を可視化することで、

熊谷市に住むことの価値を再発見する。

『働く事』　と 『暮らすこと』 が隣会い、

「何もない典型的な地方都市」のように、ずっと思われてきた熊谷。

時代は、豊さの定義を変化させ、

ついに熊谷に、その理想的なバランスがある。

と、気づくと、幸福度は増します。

子どもへの投資が、その土地の未来をつくる。

住む土地への感謝や愛のある

子どもは、地域の未来そのもの です。

Ⅳ　アイデア実現までの流れ

（COGをきっかけに実行段階に移っているので割愛）

Ⅴ　提案の更に先へ

農業対策（新規就農）や　移住・定住対策　との連動

①子ども食堂

						月	2	3	4	8	12	16
飲食店	場所代			¥0	給食センター？ 自校給食の場所？							
	食材費	¥350	30 人	¥10,500	最低30人分をルール							
	人件費	¥1,000	3 h	¥3,000	弁当が基本（店舗でもあり）							
	弁当パック	¥60	30 ケ	¥1,800	その他は自由使ってＯＫ							
	その他			¥1,000	→提供数増やすのもあり							
				¥16,300								
	全小学校区			29 校	30 人	870 人	1740	2610	3480	6960	10440	13920
	全小学校区1回あたり			**¥472,700**								
				12 カ月								
	月１　年間開催			**¥5,672,400**			¥11,344,800	¥17,017,200	¥22,689,600	¥45,379,200	¥68,068,800	¥90,758,400
事務局	スタッフ	¥50,000	3 人	¥150,000	＝ 協賛対応							
				12 カ月	食材							
				¥1,800,000	店舗まとめ							
	広告宣伝	¥30,000	12 カ月	¥360,000	SNS							
	消耗品等			¥40,000	通信費							
	予備費			¥100,000	消耗品							
				¥500,000	会計							
			年間	**¥2,300,000**			¥2,300,000	¥2,300,000	¥2,300,000	¥2,300,000	¥2,300,000	¥2,300,000
合計				**¥7,972,400**			¥13,644,800	¥19,317,200	**¥24,989,600**	¥47,679,200	¥70,368,800	¥93,058,400
	年間800万円あれば、継続的開催が可能								**毎週**	週２	週３	週４
							４軒の農家	６軒の農家	**８軒の農家**	16軒の農家	24軒の農家	32軒の農家

1食あたり350円×30人×29か所＝304,500円／月

年間365万円の農作物が必要、年間180万円の売り先が最初からある、
2軒の農家

子ども食堂の食材として、先に買い手がいるので、
新規就農支援にもなる

作り手の顔が全部見える、オーガニックな子ども食堂は、
全国探しても、どこにもない。

全小学校区でのオーガニックな子ども食堂は、エポックメイキングだ！

これらの活動を、
すべて結ぶスマートシティが、熊谷市。

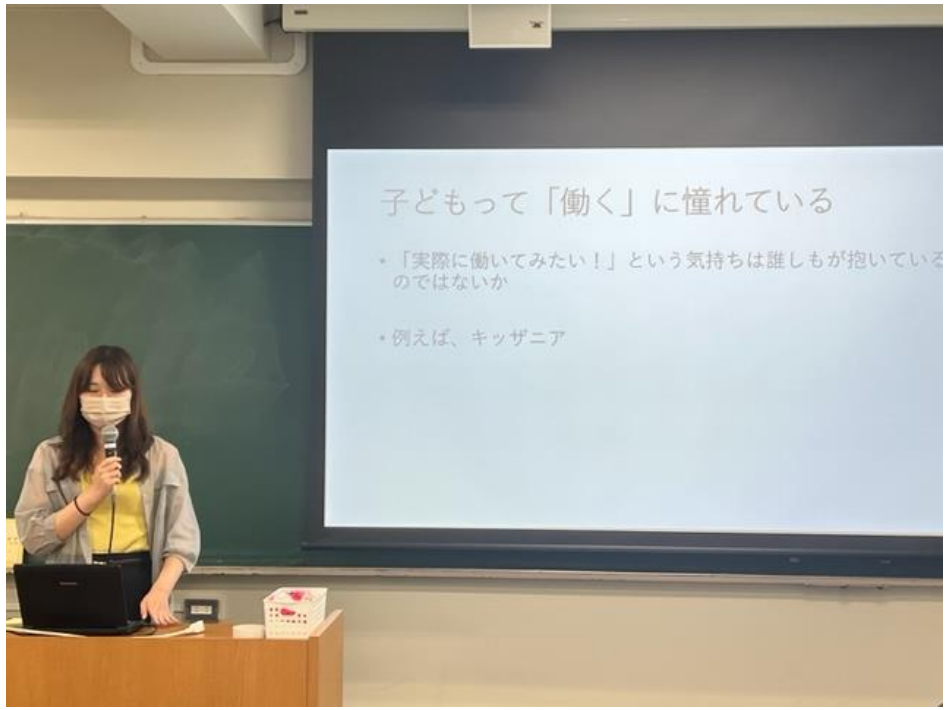
これこそが、
ウェルビーイングなまち、熊谷市ではないか？

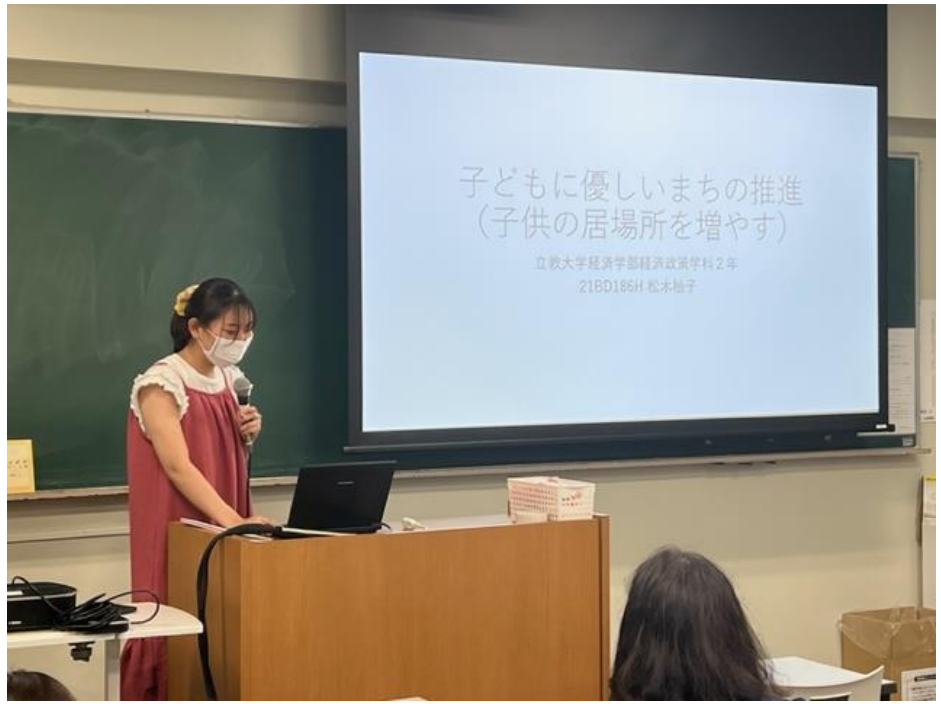
なお、今回の提案は、
立教大学　立教サービスラーニング『SOCIAL＆PUBLIC』において、

学生達が、熊谷市で暮らしながら学習を行い、
COG参加を前提に、13人の授業内でプレゼンを、
まとめた内容です。

子どもに優しいまちの推進（子供の居場所を増やす）

対象と実施計画
【対象】
【実施計画】
① 農福連携への子どもの参加 ➡ “多様な関係性の構築”
② 障がい者スポーツ大会の実施＋子ども食堂で提供している食事の紹介
➡ “子ども食堂を知るきっかけ”
③ 子ども食堂の普及・発展 ➡ “地域のコミュニティとしての成立”


子どもって「働く」に憧れている
・「実際に働いてみたい！」という気持ちは誰しもが抱いている
のではないか
・例えば、キッザニア


子どもに優しいまちの推進
（子供の居場所を増やす）
立教大学経済学部経済政策学科２年
21BD185H 松木柚子

今回のCOGの提案を実現するプロセスの中で、

総合的な学習から、22世紀をつくる人材を育てたい。

アイデアに磨きをかける3D

Data

データ活用（Data utilization）
事実の確認と主張の裏付けができます
データの可視化で人間行動の変容を促せます

Design

デザイン思考（Design thinking）
課題当事者への共感で課題の原点に迫ります
こうあって欲しいと仮説を立てアイデアを考えます

Digital

デジタル技術（Digital technology）
21 世紀社会の変容の起爆剤です
行動が変わりコミュニティーが広がります

Ⅵ　熊谷市との連携状況

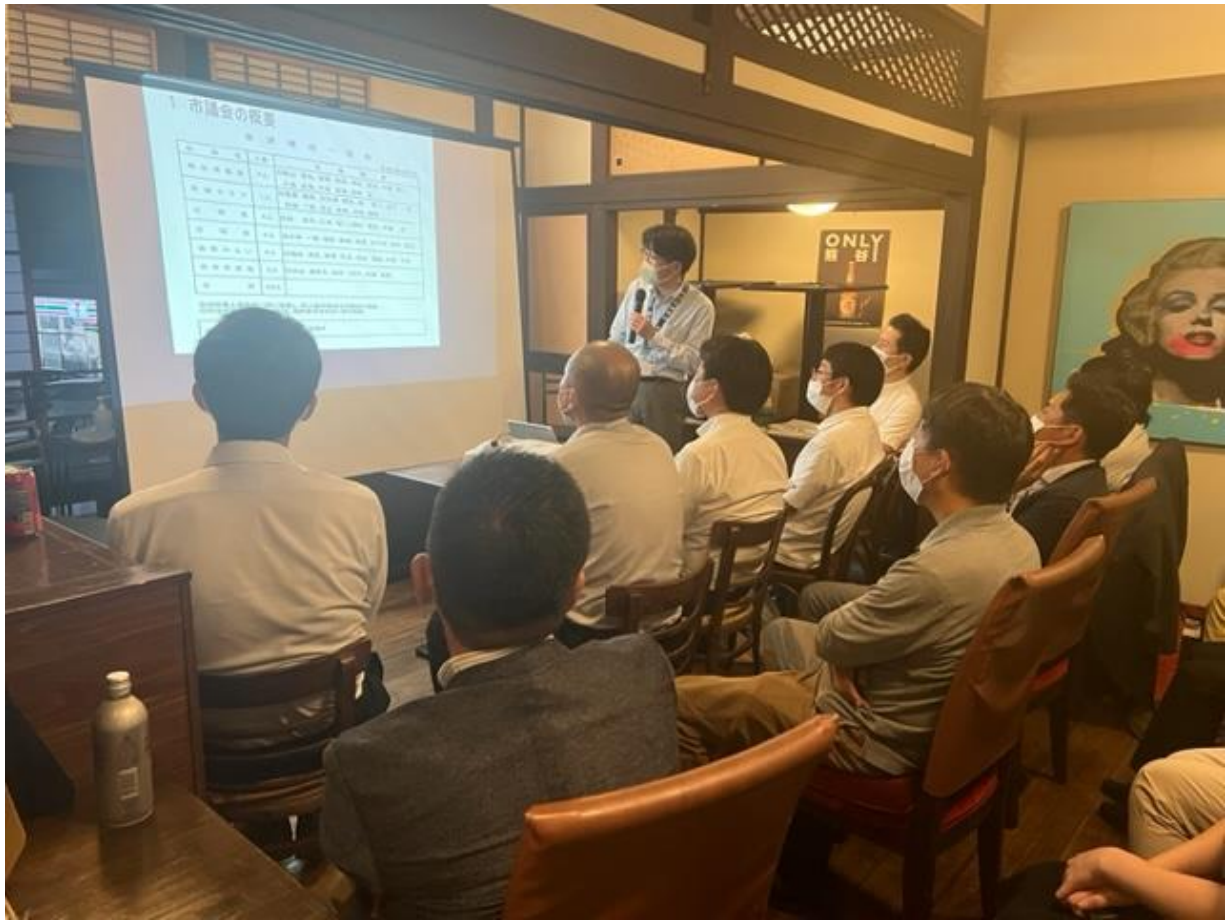
熊谷市（副市長）との面談からスタート
2022年7月4日

熊谷市とのCOG関係者の意見交換　兼　懇親会
2022年8月1日

熊谷市とのCOGキックオフミーティング（立正大学主催）
2022年10月3日

熊谷市役所職員と、
ふるさと納税＆シティプロモーションの勉強会@北本市

立教大学の授業から派生した、
熊谷市役所 若手職員との勉強会「サロンdeグローカル」

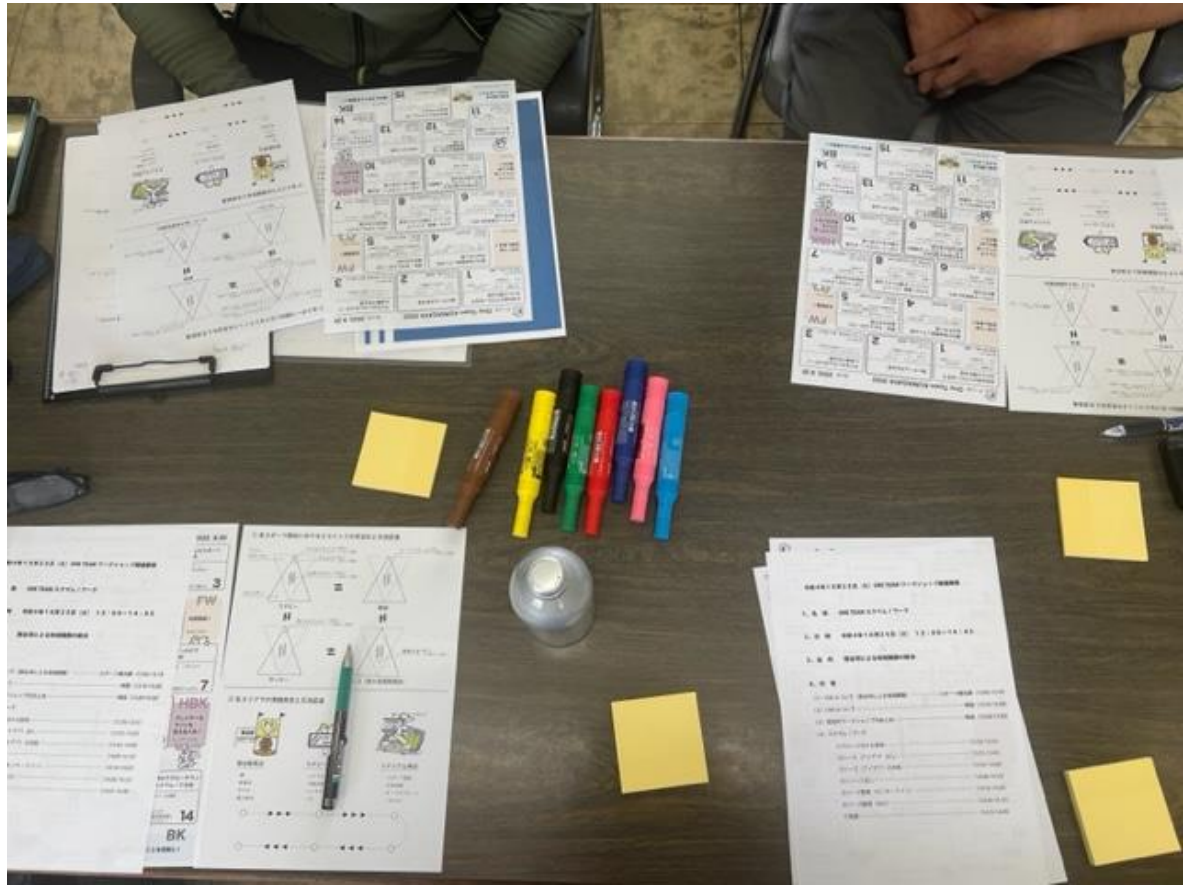


立教大学の授業から派生した、
熊谷市役所 若手職員との勉強会「サロンdeグローカル」②

熊谷市議会議員、熊谷市観光協会職員、埼玉縣信用銀行、まちづくりに関わる一般市民などが徐々に参加

関係者を集めたブレスト（スクマムワーク）①
2022年８月30日

関係者を集めたブレスト（スクマムワーク）②
2022年10月25日



熊谷市役所内でのオープンカフェ
（公開ミーティングにてCOGを扱う）
2022年12月6日

COGの話し合いをきっかけに、

ウェルビーイング研究会がつくられ、官民学連携による意見交換が始まっている。

熊谷市とのCOG関係者ミーティング

2023年1月13日

●元北本市職員　林博史氏を招き

『ガバメントクラウドファンディング型のふるさと納税』を共有

●こども食堂運営者
熊谷なないろ食堂代表　山口純子氏から

『こども食堂の課題』を共有

実現に向けた、調整を行っております。

熊谷市　大島副市長から

以下、補足＆削除資料

Ⅳ　アイデア実現までの流れ

１．実現する主体

熊谷市 子ども食堂ネットワーク　（参加団体/参加者予定）

・既存こども食堂４団体
・立教大学・立正大学
・熊谷市観光協会
・熊谷商工会議所（飲食部会）
・有限会社PUBLIC DINER
・埼玉福興株式会社
・八木橋百貨店
・熊谷市内飲食店etc
＋ボランティアメンバー

・熊谷市（熊谷市子ども食堂ネットワークが立ち上がってからの参加）
◎熊谷市との約束事
市の名前を使ってネットワークを作ることはしない。最初のネットワークは自力で立ち上げる。

２．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

①熊谷 子ども食堂フォーラムの開催　参加者50名程度

ヒト：熊谷市子ども食堂ネットワーク

モノ：場所＝地元の創業125年の老舗百貨店の八木橋（年商120億）との協業

情報発信＝市報、くまぶら（LINEを活用した熊谷市まちあるきアプリ）

各事業者のSNS

カネ：自主財源（企業による協賛金含）30万円

＋マンパワー、場所と情報発信方法が確保済

②熊谷市 全小学校区での 子ども食堂の開催

ヒト：熊谷子ども食堂ネットワーク

モノ：熊谷市内飲食店＋八木橋百貨店　発信手段は上記①と同様

カネ：初年度：自主財源（企業による協賛金含）
＋熊谷市「個店連携応援事業」の活用
（補助限度額 ５０万円、補助率 2/3以内）を活用し、
総額75万円

「個店連携応援事業」は意欲とアイデアのある市内の商業者グループが実施する事業を支援することで、 新たな連携・協働や先進的かつ意欲的な事業を創出し、市内商業が活性化していくことを目的とする。

◆応募資格は、市内に店舗及び事業所を有する、意欲とアイデアのある中小企業商業者が３者以上 集まり、共通の目的の下に活動する任意団体であること。

２０２４年度　以降の継続開催にむけて

ふるさと納税型クラウドファンディングの検討

※街づくりに絡むいくつかのメニューのひとつして
※集まった額でなく、必要な額を市が確認して

（熊谷市への要望レベル）
＋全学校区でのこども食堂の開催を事業化
＋給食センターとの連携も事業化

３．今後のスケジュール

2022年
12月　官民学連携　ウェルビーイング研究会（熊谷）設立　（済）

2023年

5月　熊谷市子ども食堂ネット-ワーク　キックオフミーティング（主要関係者のみ）

6月　日本ウェルビーイング推進協議会　キックオフミーティング

6月　立教大学RSL科目『SOCIAL＆PUBLIC』開講　＝　人的リソースが補充される

10月　熊谷市子ども食堂フォーラムの開催

2024年
2月　熊谷市　全小学校区子ども食堂の開催（イベント的にまずは、１回行う）

4月　ふるさと納税型クラウドファンディングの導入による資金調達　検討開始
　　→　継続的な全学校区子ども食堂の開催の　検討開始

活動と並行しながら、官民連携ウェルビーイング研究会（熊谷）にてウェルビーイング指標の意見交換を重ね形にしていく。子ども食堂などの活動を通じて、指標の中身を熊谷らしくしていきたい。

子ども食堂に、ラグビー選手などプロスポーツ選手が来たり、

道の駅が、子ども食堂の総本山だったり、

オーガニックフェスが、年に一度の大きなイベントだったり、

ご当地の肉汁うどんが、子ども食堂のメニューだったり、